㊍ 稲発酵粗飼料の品質向上･増収技術の開発（H21～23年度）

実施主体：畜産試験場
担　　当：家畜研究部資源活用研究Ｇ
連携機関：農業試験場

１．研究の目的・必要性

県では、県産粗飼料による飼料自給率の向上を図るために、大規模稲作農家と畜産農家の間で契約して転作作物である稲発酵粗飼料の生産拡大を推進している。しかし、収量は低く、また品質にばらつきが見られている。そこで飼料専用稲の特性を解明し、適切な栽培管理技術や品質を高める技術を開発することにより、さらなる稲発酵粗飼料の栽培・利用の拡大を図る。

２．研究項目・内容・年度計画等

研　究　項　目	研　究　内　容	実　施　年　度		
		H21	H22	H23
播種時期別栽培管理法の検討および品種特性の把握	稲の播種時期を変えたときの稲の生育状況と、成熟過程を調査し、飼料用稲の品種特性を把握する	← ・播種時期別の生育状況調査 ・刈取り適期（積算気温、水	 分、熟成度など）調査	→
栄養成分および発酵品質を考慮した刈取り適期の検討	稲の刈取り時期を変えたときの栄養成分と発酵品質を分析し、発酵粗飼料としての適期を検討する	← ・刈取り時期別の栄養成分（糖 ・品種ごとの、嗜好性に関わる	 デンプン等）、発酵品質（窒素、 成分（灰分、ケイ酸）の分析	→ 脂肪酸等）の分析
発酵品質を考慮した栽培管理方法の検討	刈取前の土壌水分状態を、落水時期を変えることによって操作し、糖含量に及ぼす影響を調べる	← ・落水時期と土壌水分状態の ・土壌水分が糖含量に及ぼす	 関係を分析 影響を調査	→
事　業　費（千円）	調査研究事業	４，３９０	２，５５７	２，１２８

３．期待される成果等（成果目標）

・飼料専用品種の刈取り適期診断技術の確立－　１０ａ当たりの収量増加　　現状：２トン　→　４トン
・稲発酵粗飼料の品質向上－発酵品質指標６０点以上
・稲発酵粗飼料の栄養価と品質の向上－利用農家数と利用量の増加　　現状：８戸　　４０ｈａ　→　目標：２０戸以上　　６０ｈａ以上
・稲発酵粗飼料の収量増加額－１５，６００千円
・成果の普及方法－モデル農家での実証展示、普及サイドと連携し講習会などで農家指導を図る

４．予算額　　２，１２７，９２７円　　（地域科学技術振興研究事業）
（財源：国庫１０／１０〔特別電源所在県科学技術振興事業費補助金〕）